

だれもが安心して暮らせる川崎へ



7月参院選
10月市長選



川崎市の保育園不足を告発した『週刊朝日』2月23日号と、ムダづかいの川崎ファズ事業を告発した『実業界』6月号

深刻な保育園不足を ごまかす、市独自の 「待機児の数え方」

川崎市の保育園不足は全国最悪…。入園を申請しても入れない子どもが昨年10月時点で2,475人。ところが国の定義にも反する市独自の算定方法で、待機児数は1,348人とカウント。親が求職中でも「低所得、生活保護、ひとり親」でない児童や、親が産休・育休中の児童は切り捨てるといって、本当に冷たい「待機児の数え方」をしているからです。

あまりにも働く父母の現実を無視し、女性の就労や子育て支援に責任を負わないやり方ではないでしょうか。

市長は、3カ園の新設や7カ園の増設など今後の市の対策で「待機児がすべて解消できる」としていますが、とんでもありません。全部できても定員増は630人。市独自の数え方で低くはじき出した待機児数さえ解消できない、まったく不十分な計画です。

慣れ親しんだ職員も総代わり 障害者授産場の民間委託

障害者の働く場である市立大師授産場を新年度から民間委託にする条例が強行されました。昨年10月に突然知らされた利用者と家族が、この条例によって慣れ親しんだ職員がすべて代わってしまうことに「環境の適応に弱い知的障害者には計りしれないストレスになる」「考えたら夜も眠れない」と強い不安を訴えていたもの。日本共産党は、「あまりにも障害者と家族に心ないやり方」と批判し、納得と合意がないまま「民間委託先にありき」で強行することは許されないと主張しました。

介護保険料・利用料の 減免制度 貯金が20万円 あったら受けられない

介護保険がはじまって1年。川崎市で保険料・利用料の減免制度の利用者があまりにも少ない原因が、明らかになりました。生活保護では考慮されている家賃分まで「所得」とみなされ、さらに、他都市では100万円から300万円まで認められている貯金が、川崎市では生活保護の人と同額の20万円までしか認められないため、ほとんどの高齢者が対象外になってしまうのです。

日本共産党は、「川崎市の基準が、こんなにお年寄りに冷たいことに胸が痛まないのですか」と市長に早急な改善を求めました。

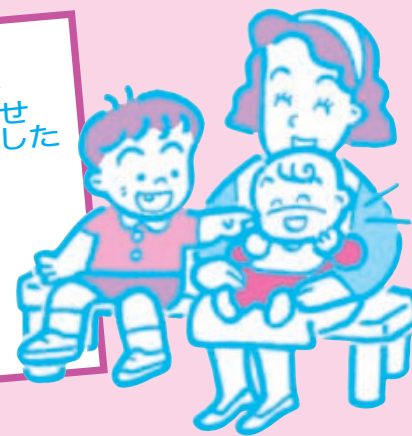
待機者1,250人もいるのに… 特別養護老人ホームの開所 新年度はゼロ

「介護保険料を払っているのに、どうして入れないの?」。昨年9月時点で特別養護老人ホームの待機者は1,250人も。これまで市長が建設を遅らせてきたツケが、ふきだしました。

ついに新年度中の新たな開所はゼロ。市長が整備目標にしている25カ所が全部できて増えるベッドは403床で、とても待機者は解消できません。すべての待機者を解消するために、25カ所以降の建設計画の具体化が急がれています。

乳幼児医療費助成 4歳までの拡大 「前向きに検討する」と市長に約束 させました

「子どもが病気になる時、お金の心配をせずに病院に行けるよう医療費を無料にしてほしい」という父母の願いは切実です。横浜市乳幼児医療費助成の対象年齢を今年度から東京都は就学前まで、横浜市は4歳まで（来年1月実施）引き上げましたが、川崎市は現状維持（3歳まで）。「当面、横浜市などに4歳まで拡充を」との日本共産党の要求に、市長が「前向きに検討する」と初めて約束しました。



市民のみなさんに心からおわびいたします

麻生区選出の、稲本隆議員が5月10日記者会見し、日本共産党から離党し、無所属で議員を続けると表明しました。稲本氏はその理由に、今秋の川崎市長選の立候補を表明した斎藤良夫氏が元川崎市健康福祉局長であったことを取り上げ、斎藤氏は「地方官僚」で「高橋市政の悪政の推進者」であった、候補者としてふさわしくないと述べています。また候補者選考についての「党の運営方法」も納得できないとしています。市長選問題では党市議団でもくり返し議論され、稲本氏からはこの間、何の異論も出されませんでした。高橋市政の福祉の異常な後退を憂い立候補を決意した斎藤氏を「官僚」と決めつけ、それをもって「悪政の推進者」といふくめる主張には道理がありません。市長候補に重要なことは、その経験・資質とともに、どのような政策を掲げているか、

です。斎藤氏を推す「思いあいの会」と日本共産党も参加する「民主市政の会」が、「市民こそ主人公」を明確にした政策協定を結び、斎藤氏はその政策を尊重すると明白に述べており、斎藤氏が市民の立場に立っていることは明白です。また候補者選考についても市議団でくりかえし報告・議論をおこなってきています。稲本氏のこれらの意見は、最近になって突然表明されたもので、自らの意見に固執しつつ、一方的に話し合いを打ち切った記者会見がおこなわれたものです。日本共産党は市民の願いに反し、市民の期待を裏切った稲本議員に議員辞職を求めています。日本共産党は市民のみなさんに心からおわびするとともに、公約と市民要求実現、川崎民主市政実現のために全力を尽くす決意です。（日本共産党川崎市会議員団）

許されない稲本議員の、有権者への背信と屈座り

いまの市政

“福祉の心”が問われているのではないでしようか!?

市政の役割は、住民の暮らし・福祉をしっかりと守ることです。しかし今の市政は、肝心の「福祉の心」が問われているのではないでしようか。三月議会で日本共産党は、介護にも子育てにも責任を負わない市政のやり方を告発し、改善を求めてがんばりました。

予算議会で

改善を強く求めました 日本共産党

「構造改革」を叫ぶ小泉首相ですが、その具体的な中身は橋本・小淵・森内閣がつくった行革そのものの断行だと言っています。「改革には痛みが伴う」という小泉首相がこれからやるつもりとしている「不良債権処理」では、中小企業の倒産が激増し、百三十万人もの新たな失業者が生まれるという試算も…。ほんとうにこれでよいのでしょうか。

小泉首相は「福祉は自律・自助で」とも言っていますが、それでは政治はだれのための、なんのための政治かが問われているのではないでしようか。

福祉や教育は削り、税金はゼネコンや大銀行に。こんな逆立ちした政治のあり方をキッパリただすことこそいま求められていると、日本共産党は考えます。

川崎市政も、冷たい政治の流れから、市民の暮らし・福祉を第一にするあたりまえの姿の市政に、「いっしょに力をあわせましょ。」

市民のみなさんと日本共産党が力をあわせ 川崎から新しい政治の流れを

新しい市政へ

福祉・医療ひとすじ
直接対話・現場主義・情報公開

齋藤よしお
さいとう良夫さん
無党派 元川崎市健康福祉局長



日本共産党も推薦し
全力で応援します

一〇月の川崎市長選。不要不急の公共事業をやめ、市民の暮らし・福祉・地域経済を優先する市政をつくること、「思いあいと活気ある川崎市政を市民参加で実現する会」から元川崎市健康福祉局長の齋藤良夫さんが出馬表明しました。同会と「市民が主人公の川崎民主市政をつくる会」が政策合意し、確認団体「市民21の川崎まちづくりをすすめる会」を結成。政策で一貫した日本共産党も齋藤良夫さんの推薦を決め全力で応援しています。

